

## 経済学〈H07A〉

配当年次	全学年
授業科目単位数	4
科目試験出題者	袴田 兆彦
文責(課題設題者)	袴田 兆彦
教科書	<b>基本</b> 袴田 兆彦『経済学』(中央大学通信教育部)

### 《授業の目的・到達目標》

経済学はグラフや数式がたくさん出てくるために、一見取っつきにくい感じがします。しかし、私たちは誰でも経済生活を営んでいるわけですから、会社の経営や仕事のためという以前に、自分の生活のために経済の動きを正しく理解する必要があります。そこで、この科目では新聞の経済記事が読んで理解できるようになることを目標にします。

### 《授業の概要》

私たちの社会は、失業や経済格差などに加えて、通貨不安や資源価格の高騰、環境など、さまざまな経済問題を抱えています。しかも、これらの問題は貿易や資金の流れを通して地球規模で密接に絡み合っており、1ヶ所に具合の悪いところが出ると、ほかの部分にも影響を与えていきます。

経済学には、消費者や企業といった経済主体の行動や市場経済の動きを分析するミクロ経済学と、国民経済全体の動きを分析するマクロ経済学の2つの視点があります。たとえば、原油価格が上昇するとバイオエタノールへの需要が増加し、回り回って食品の価格にも影響を与えますが、このような問題はミクロ経済学の対象になります。

しかし、私たちの経済は単なる経済主体の寄せ集めではありません。たとえば、不況下の企業が賃金を切り下げるとすればこの企業はコスト削減に成功するでしょうが、受け取る側の従業員からすれば賃金低下は所得減少につながります。経済全体で賃金引下げが行われるならば、所得の減少は個人消費の低迷につながり、消費財を生産する企業の赤字をさらに拡大させることになります。したがって、個々の経済主体の行動を見るだけでなく、経済全体にも目を配る必要があります。このように、経済の全体像をつかんでいこうとする見方がマクロ経済学です。

この科目では、ミクロ経済学とマクロ経済学の両面から、主として日本における現実の経済問題を念頭におきながら、経済学の理論によってどのように現実が説明できるのか、また、そこからどのような政策を引き出すことができるのか、ということを学習していきます。

### 《学習指導》

経済学では、込み入った議論を整理し、簡潔かつ正確に説明するために、数式やグラフを用います。とくにミクロ経済学では「微分」の考え方が出てくるので数学が苦手な人は大変だとも知れませんが、計算問題を解いたりスピードを競ったりする必要はありません。「微分」は変化を扱う領域で、応用例は身の回りにいくらでもあります。あくまでも「考え方」を理解できていればいいので、焦らず恐れず、じっくり考えてください。

《成績評価》

試験（科目試験またはスクーリング試験）により最終評価する。

# 経済学〈H07A〉

- ◎課題文の記入：必要（課題記入欄に課題文を書き写すこと）
- ◎字数制限：1 課題あたり 2,000 字程度（作成基準のとおり）

## 第1 課題

企業による価格と生産量の決定について、つぎの問に答えなさい。

- (1) つぎの4つのことばを説明しなさい。  
a. 限界費用 b. 平均費用 c. 限界収入 d. 平均収入
- (2) 完全競争市場において利潤最大化を目標にする個別企業が均衡にある場合、生産量の決定はどのように行なわれるか。グラフや数式を用いて説明しなさい。
- (3) 不完全競争市場においては企業の均衡の条件はどのように変更されるか。グラフや数式を用いて説明しなさい。

## 第2 課題

市場経済の働きについて、つぎの問に答えなさい。

- (1) 需要の価格弾力性とはどのようなことか。式を書いて説明した上で、商品や市場の違いによって弾力性はどのように異なるか、述べなさい。
- (2) マーシャルの一時的均衡、短期均衡、長期均衡の違いはどのような点にあるか、説明しなさい。
- (3) 市場の失敗の例として公共財の例を取り上げ、説明しなさい。

## 第3 課題

国民所得の決定について、つぎの問に答えなさい。

- (1) 均衡国民所得の決定を、数式または45度線図を使って説明しなさい。ただし、ここでは需要の中心は民間の消費と投資だけとし、政府の経済活動と外国貿易は考えないものとする。
- (2) 投資の増加はどのようにして国民所得を増加させるか。国民経済を資本財産業と消費財産業とに分け、波及過程を追いながら説明しなさい（ただし、ここでは在庫は一定とする）。
- (3) 財政政策について、政府支出の増加と減税とではどちらの方が効果が大きいか。数式を用いて比較しなさい。

## 第4 課題

つぎの問に答えなさい。

- (1) 貨幣数量説とはどのような考え方か。これを説明しなさい。
- (2) 貨幣の3つの機能を挙げ、これを念頭において、貨幣数量説の問題点を指摘しなさい。

〈推薦図書〉

伊藤 元重	『入門経済学』〔第4版〕(2015年)	日本評論社
神戸 伸輔・寶多 康弘 他	『ミクロ経済をつかむ』(2006年)	有斐閣
井上 義朗	『読む ミクロ経済学』(2016年)	新世社
福田 慎一・照山 博司 他	『マクロ経済学・入門』〔第5版〕(2016年)	有斐閣
井上 義朗	『読む マクロ経済学』(2016年)	新世社